

平成29年度市民主体の計画づくり策定状況

「市民主体の計画づくり」とは

みなさんの生活に関係する、各種計画の策定過程を知ってもらい、参加してもらい、ご意見を出し合ってもらい、ことにより、より多くの人が納得できる計画を市民のみなさんと一緒につくることです。

平成29年度においても、計画の策定作業を進めるにあたり、多くの市民のみなさんに関わっていただきました。その中から「公共施設等総合管理計画」「文化芸術マスタープラン(仮称)」について取り組み結果を掲載します。※他の計画についても、随時、市HPで取り組み状況等を更新していますので、ぜひご覧ください。

～公共施設等総合管理計画～

これまでの取り組み

8月から11月にかけて計5回、今後老朽化が進み、更新等を考えていかなければならない市の公共施設について、「公共施設のあり方検討市民ワーキング」を開催し、延べ88人の市民と共に情報共有、現地確認、議論等を行いました。参加者全員で考えた成果を最終的に4つの提言として形にしました。

提言

- 1 「市の顔」となるような魅力ある拠点の整備
- 2 誰もがふらっと立ち寄り、フラットに使える施設の整備
- 3 使い勝手の向上を目指した施設情報の見える化や柔軟な対応
- 4 全施設を計画的、総合的に管理する市長直属の強力な推進体制の整備

これからの取り組み

今後この提言を参考に、財政課において公共施設等総合管理計画を更新し、これに基づき公共施設の適正な管理を推進していきます。※このワーキングの運営には名古屋大学大学院恒川和久准教授と同大学生の協力をいただきました。



～文化芸術マスタープラン(仮称)～

これまでの取り組み

8月から2月にかけて文化の家及び文化芸術について知ってもらい、自由に意見を出す場として「文カフェ」と称した市民ミーティングを計5回、計画を策定する場として市民検討会議を計5回開催しました。広く意見を聞くため、文化の家利用者、市民、関連団体に対してアンケートやアイデア募集を行いました。

参加者の声

参加した当初は、市民が意見を出し合ってプランを作っていくことが出来るのだろうかという不安や、議論の中で縦割り行政の弊害を感じることもありました。しかし、いろいろな方と議論する中で、いつもと違った視点から文化芸術を見ることができました。子育てをしながらの参加は大変でしたが、ほかの市民のみなさんとの関わり、知り合い、つながるよききっかけになったと感じています。

市民検討会議メンバー 近藤 愛子さん

これからの取り組み

今後、いただいた意見を参考に、第3次文化芸術マスタープラン(仮称)を策定し、これに基づき文化芸術活動を推進していきます。

